

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

山陽小野田市教育委員会

1 調査の目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。
- ・ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。
- ・ 上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

2 調査の対象学年

小学校第6学年、中学校第3学年

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（小学校は国語、算数、理科 中学校は国語、数学、理科）
※ 小学校理科及び中学校理科は4年ぶりに実施
- (2) 生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査
 - ア 児童生徒に対する調査
 - イ 学校に対する調査

4 調査の方式

悉皆調査（調査の対象学年の全児童生徒を対象とした調査）

5 実施日

令和4年4月19日（火曜日）

6 実施状況

学年	学校数	児童生徒数
小学校第6学年	11校	児童 502名
中学校第3学年	6校	生徒 498名

7 調査結果

- ・ 教科に関する調査では、小学校国語、算数、理科及び中学校国語、数学、理科は、平均正答数及び平均正答率は、全国とほぼ同程度です。
- ・ 児童生徒に対する調査では、小・中学校とも「人の役に立つ人間になりたいと思う」「学校に行くのは楽しい」「読書は好き」などの項目において、肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国と比べて高い結果となりました。
- ・ 児童生徒に対する調査のうち、「朝食を毎日食べている」は全国とほぼ同程度ですが、小学校の「毎日同じ時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」などの項目において、全国と比べて下回っています。

8 今回の結果を踏まえた重点的な取組

小・中学校とも子どもたちは、学校生活を楽しいと感じており、落ち着いて学校生活を送っています。一方で、教科の見方や考え方にそって自分の考えを表現する力については、小学校において改善の傾向が見られますが、引き続き課題があると考えています。また、児童生徒の基本的な生活習慣について、本市で取り組んでいる「生活改善プロジェクト」をさらに推進していく必要があります。

こうした課題を解決するために、市教育委員会としましては、次の四点について重点的に取り組んでまいります。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

- ・ 主体的な学びを促すために「見通し」と「振り返り」を位置付けた授業を実施するとともに、一人一台端末を効果的に活用して授業の改善を図ります。
- ・ 学習課題について、自分の考えを相手に伝えたり、検討したりしながら解決を図る授業を推進していきます。

(2) 個に応じた学習指導の改善・充実

- ・ 児童生徒に対して、学習状況の改善や学習意欲の向上につなげていくという観点を十分考慮しながら、それぞれの課題に応じた補充学習を適切に行うなど、基礎的な学力の確実な定着を図ります。
- ・ 児童生徒の学習内容の習熟度に応じた学習や、学校や家庭における一人一台端末を活用した学習の充実に努め、自分のペースで自分に必要な学習内容を選択して取り組める学習を推進します。

(3) 生活改善の取組

- ・ 他市町における好事例の取組などを紹介したり、PTAや学校運営協議会と連携したりして、各学校で取り組んでいる「早寝、早起き、朝ごはん」の活性化を図ります。

(4) 学校全体における組織的な取組の推進

- ・ 成果が見られる学校に聞き取り調査を行い、その効果的な取組を校長会や学力向上担当者会議において報告します。
- ・ 指導主事による学校訪問等を通して、学校の課題を明確にしていき、組織的に取り組めるための指導や支援を行います。
- ・ 各校のICT担当者を集めたICT教育担当者会議を開催し、授業における好事例や日常的な活用についての情報共有を図ります。また、ICT支援員を各学校へ派遣し、授業における端末等の活用を支援し、学校全体におけるICTスキルを向上させていきます。
- ・ コミュニティ・スクールの仕組みを活用して、学校・家庭・地域がそれぞれの立場でできることを確認し、児童生徒の学びを支援していきます。